

ニキビ治療における 「ぬり薬」の正しい使い方を知って 「美肌」を目指そう

ドクターズコンテンツシリーズ #62

はじめに

年齢・性別を問わず、多くの人が悩まされているニキビ。今回は、特にぬり薬を使ったニキビ治療についてお伝えします。

自分のニキビの状態と、ぬり薬がニキビに効く仕組みや治療にかかる時間を正しく学び、ニキビを繰り返さない理想の「美肌」を目指しましょう。



Doctor

やまざき 皮ふ科

やまざき あきこ
山崎 明子 先生

ニキビ治療は一定の時間をかけて

ニキビを治し美肌を手に入れるのは簡単なことではありません。特に、ニキビの原因となる毛穴のつまりを取るには一定の時間がかかります。毛穴のつまりを取らなければまた新しいニキビができてしまいますので、途中で治療をやめないことが大切です。

まず、ぬり薬を少しずつ塗り始めて2週間で、肌に問題がないか、副作用が出ていないかを確認します。問題がなければ適量のぬり薬を塗り治療を継続します。症状や体質によって差がありますが、3カ月～6カ月は頑張って治療を続けましょう。



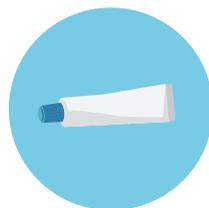
「ぬり薬」がニキビに効く仕組み

初期段階のニキビです。毛穴の出口がふさがれ、皮脂が詰まって白っぽく見えるため、白ニキビと呼ばれています。まだ炎症を起こしておらず、痛みやかゆみはありません。

ぬり薬「過酸化ベンゾイル」

過酸化ベンゾイルは数年前に認可された薬で、角質を乾燥させて取り除き毛穴のつまりを改善する効果と、漂白作用でアクネ菌を殺菌し増殖を抑える効果の両方を持つ薬です。

ニキビあとの赤みも引きやすく、比較的早くニキビを治してくれます。



過酸化ベンゾイルは非常に有益なぬり薬ですが、かぶれる可能性がありますので十分に気をつけなければなりません。

薬は切らさず

ニキビが完治したようでも、再びニキビができてしまうこともあります。その時にすぐに治療できるよう、ぬり薬を切らさないように心がけてください。治療後も経過を見るため定期的に通院するようにして、その際にぬり薬についても相談するようにしましょう。

「過酸化ベンゾイル」による治療の流れ

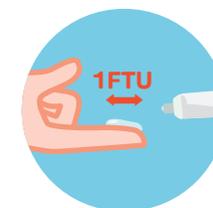
まずは少しずつ塗って様子を見ながら

- まずは1日に1回、洗顔後、自分のニキビの中でも一番症状の重い箇所になん少しか薬を塗るようにしましょう。
- 紅色丘疹や膿疱がある場合はそれらの部分に、白色面疱だけの場合は白色面疱に、綿棒で少量を塗るようにします。
- 最初の2週間はそうにして、かぶれないかを確認するくらいの気持ちで塗り続けましょう。

薬を外用した2週間後に再診していただき外用剤の継続を判断いたします

- 最初は少量、少ない範囲から。塗る量と範囲を少しずつ増やし、数日かけて慣らしていきます。
- かぶれもなくしげきに慣れてきたら、1FTU(フィンガーチップユニット)を顔全体に塗るようにしましょう。

1FTU(フィンガーチップユニット)
人差し指の先から第一関節までの長さ、約0.5g



しげき症状やかぶれが出てしまったら

過酸化ベンゾイルの副作用は、治療が続けられる症状と中止が必要な症状があります。

治療が続けられる場合

赤みやヒリヒリ感といったしげき症状や乾燥・皮むけは、多くの場合徐々に症状の頻度が減っていきます。使い始めの2週間は注意しながら、様子を見て薬の量と塗る範囲を調節し治療を続けましょう。保湿剤を多めに使う、塗る頻度を抑えるなどの対応でも症状は軽減していきます。

治療中止の場合

強い赤みや強いかゆみ、ジュクジュクしたひどい腫れなどがぶれの症状が現れた場合は、すぐに薬の使用を中止し、皮膚科外来を受診してください。

治療を続けるべきか、すぐにやめるべきか、わからなかったり心配だったら、いつでも皮膚科外来を受診してください。

この他にも...

ドクターからの健康アドバイス「ドクターズコンテンツ」
サイトでは様々な症例をご紹介します。

- ニキビ治療を始める前に知っておきたいこと
- 「ぬり薬」によるニキビ治療の流れ
- ニキビ治療で気をつけたいポイントなど掲載中!

アイチケット広場



<https://park.paa.jp/>